

令和7年度第1回釜石市総合振興審議会開催結果

- 1 日 時 令和7年12月24日（水） 13：30 ～ 15：00
- 2 場 所 釜石市民ホール TETTO ホール A
- 3 出席者 委員：37名中26名出席
市：市長、副市長、教育長、総務企画部長、市民生活部長、保健福祉部長、産業振興部長、都市計画課長（建設部長代理）、危機管理監、教育部長、総合政策課長、防災危機管理課長
傍聴者 1名

4 結 果

- ・総合政策課長の司会で次第に基づき進行した。
- ・始めに、人事異動等に伴い新しく委員となった方々を代表して、田鎖伸也委員に小野市長から委嘱状を交付した後、市長あいさつ、会長あいさつを行った。
- ・次の副会長の選出を行い、小澤委員を副会長に選任することで各委員の了承を得た。
- ・条例に従い、議事進行を小泉会長へお願いした後、議事として、総合政策課長から「第六次釜石市総合計画後期基本計画の概要」「第六次釜石市総合計画後期基本計画素案」について説明を行った。説明後、質疑応答を行った。
- ・6つの部会（まちづくり部会、危機対応部会、教育文化部会、産業振興部会、生活環境部会、保健福祉部会）に分かれ、事務局より各分野の計画案について説明した後、意見交換を行った。

【開会】

【委嘱状交付】

～役職変更等により、新たに委員となられた8名に委嘱状を交付。～

【小野市長 あいさつ】

本日の審議会について、委員の皆さまには、お忙しいところお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

新たに今回、委員の委嘱を受けていただきました8名の皆様、そして継続して委員となっていていただきます皆様も、今後ともよろしくお願いたします。

今日の審議会のお話であります。今、釜石市は第六次釜石市総合計画後期基本計画策定の最中でありまして、総合計画においては、令和3年度から12年度までの10年計画ということになっております。令和3年度から7年度までが前期の基本計画、8年度から12年度までが後期の5年間の計画ということになっております。

本日皆様にご審議いただきますのは、前期計画の振り返りとその反省を令和8年度の後期基本計画案として出させていただきます、それを審議していただくというものでございます。

令和3年度からの前期の計画、当然のことではありますが、様々な反省点、費用対効果等々ありまして、見直すべきものは見直し、改善すべきものは改善し、新たな施策として事業展開するべきものであると思っております。

それを今日、審議していただき、令和8年から新年度から始まる後期の基本計画に反映させていただきますと思っております。

基本的に今後5年間の後期基本計画の柱は、私ども3つあると思っております。その3つは、交流人口、地域力、そして人材育成であると思っております。議会の方でもすでに説明をさせていただいております。

1つ目の交流人口であります。これは前期計画でも既に出ておりますが、我々釜石市民の力といたしまして、他の地域からの知恵や経験を、釜石市の発展の力に変えてきたということが、私は市民の特性であると思っております。これがこの10年間の基本計画の根底に流れるものであります。

これは、後期の基本計画の中にも折り込み、入れさせていただきたいと思っております。それが1つ目の交流人口の増加を目指すというものであります。

2つ目は地域力の展開というものであります。私は本来、我が町を自分たちで良くしようという地域が持っている本体の力を、どれだけこの行政が引き出すことができるのかというものは、次の5年或いは10年の大きな鍵になってくると思っております。令和7年度は本当にいい流れになってきていると思う出来事が幾つかありました。

それはこの8月に行われました、釜石の夜市であります。

これは私も来賓として出席をさせていただきましたが、このイベントは、行政が何のお手伝いもしていません。地域から自然発生的に自分たちの地域を盛り上げようじゃないかと、こういった力、勢いが出てきております。もしこういった地域力、本来地域が持っている力をどれだけ釜石の発展に反映できるのかというのが、今後の5年或いは10年のですね、釜石の発展に大きく変わるのだろうというふうにも思っております。

そしてこの11月から始まっております。釜石冬灯りという大通りでやっているイルミネーションの点灯ですが、これも本当に素晴らしい行事であると思っております。

こういった本来地域が持っている力が自然発生的に出てくると、こういった行為、或いはその勢いを、市がどれほど引っ張り上げることができるのかということが、この10年或いは15年、20年の釜石の発展に大きく関わってくると思っております。

そして最後の3つ目です。やはり人材育成だろうと思っております。この交流人口にしても、地域力にしても、継続的に釜石の発展の力とするために、どれほど我々の総合計画が、その地元の人材を育成することができるのかと、これを継続的に釜石の発展に変えていくためには、やはり人間なんだろうと思っております。

この人材育成と交流人口と地域力、この3本柱にこの後期の基本計画をつなげていきたいと思っておりますので、ご参会の皆様、本日はどうか忌憚のない意見をお伺いしたいと思っております。また、そのことによりまして、今日始まりました、総合振興審議会の諮問に、この計画がどれだけいい計画になるかということがかかっていると思えます。

皆様のどうかご忌憚のないご意見をお伺いしたい、このことをお願い申し上げまして、冒頭での挨拶とさせていただきます。

どうかよろしく願いいたします。

【小泉会長 あいさつ】

総合振興審議会、ここ何年間、私たちが釜石のまちづくり、それからまちの流れ、こういったことは、苦しい時期がずっと続いております。

その間、全国的な人口減少、それから今いろんなことがありまして、そういう流れの中で、私たちがどのようにこのまちを作っていくかという難しい命題をみんなで考えて、少しずつ前に向かおうという流れでやって参りました。

今、小野市長が言われたとおり、本当に自分たちで考えて自分たちで前に進む、それから他方の力も、様々なところからの力も借りながら、そして人を作り、みんなで健康でありたいと思えます。しかし、なぜかこの町は少し、早死の傾向があります。これは昔からで、漁村農村のうちにはよかったです。文化的なまちに変化したと同時に、そういう流れになってきました。やはりお金回りが良くなると、お酒飲んだり食べたりすれば、人間はそうなる。年齢層、それから高い発症率もこの頃は落ちてきましたけれども、まだそういう名残が残っているという、データの的にはそういう表し方ができると思えます。

これから今、小野市長が言われた通り、いつも前向きにやってきてはいますが、どういう前向きか、各々、このまちで生きて、そしてまたこの町を発展させていい人材を作って、それからというような考え方があります。

その中には、健康もありますし、様々な課題が山積しておりますけれども、1つ1つ少しずつは進んでおりますが、これからはそうゆったりとはしておられない時期にきました。

日本の国全体を見ればその通りですが、その中でも、私たちのこの釜石市を見ますと、10万人あった都市が今は2万8千、7千人という人口です。当時ピークで9万6千人あった都市がですから、それが今この状況になったときに私たちは何を考えて何を目指していくかということを明確にとらえていかなきゃないと思えます。もう今まで計画も会議も様々やってきました。皆さんがそれぞれ頑張ってきましたが、それでも人口はどんどん減り続け、子どもは少なくなっていくという状況が続いております。

ここを少し打破していくような政策で、住みやすいまちで人が集まるまちをやはりつくっていくかなければいけない、そういう意味では様々な工夫が皆さんそれぞれのパートで重要な人物でありますので、いろんな考えがあると思いますけども、ただ1つは、市民の皆さんがこのまちはどういうまちであるかを理解して、皆さんと一緒に情報交換をしていかなければいけない。

噂ではなく、基本的な情報を知ってなければいけないというのが基本的なことになると思いますので、よく深掘りしながら、それを知ると何をしたらいいかということはわかると思いますので、それも踏まえて前に進んでいければと思います。

皆さんこれからパートに分かれて、深掘りの場面でわからないことがたくさんあると思いますが、どんどん質問でしながら意見の交換をしながら、よい知恵をみんなで出し合いながら進めていければと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

【副会長選出】

～釜石商工会議所の役員改選により、小澤伸之助会頭となられたことから、引き続き会頭である小澤様に釜石市総合振興審議会の副会長をお願いすることで事務局から提案され、承認された。～

【第六次釜石市総合計画後期基本計画の諮問について】(資料No.1)

～小野市長から小泉会長へ諮問書が交付された。～

【第六次釜石市総合計画後期基本計画の概要について】(資料No.2)

それでは、第六次釜石市総合計画後期基本計画の策定について、説明いたします。

資料No.2の1ページをご覧ください。

当市では、令和3から12年度までの10年間を計画期間とする第六次総合計画を策定し、目指す将来像「一人ひとりが学びあい世界とつながり未来を創るまちかまいし～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～」の実現に向け、各種施策や事業を推進してきました。

2ページをご覧ください。

総合計画の役割は、当市の行財政運営の最高指針として、基本構想に定められた将来展望や、それを達成するための基本目標を具体化するため、各分野における具体的施策を総合的かつ体系的に明らかにするものです。

また、市政の方向性を示し、協働によるまちづくりを推進するため、自発的な取組と参画を促し、さらには、国・県、周辺市町村などに当市のまちづくりの方向性を示し、連携してまちづくりに取り組むものです。

3ページをご覧ください。

総合計画は基本構想、基本計画、実施計画で構成されており、基本構想では、市民や地域団体、事業者など当市に関わるすべての方々が、ともに描く魅力的な将来像を示しています。

基本計画では、将来像の実現に向け、まちづくりの方向性に沿った政策を体系的に示し、具体的施策や重点業績成果指標を盛り込むものです。

実施計画は、基本計画を支える経営方針として、毎年向こう3ヶ年に実施する事業を示し、その進捗状況に合わせて毎年度見直しを行っています。

4ページをご覧ください。

総合計画の計画期間は10年間であるため、今年度の令和7年度に中間年を迎えます。

基本計画は、施策の達成度や社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて中間年で見直しを行うこととしています。

よって、これまで展開してきた施策を総合的に評価・検証するとともに、社会情勢の変化や新たな課題を踏まえながら、当市が目指すべき将来像の実現に向け、令和8から12年度の政策の基本指針を示す「後期基本計画」を今年度において、策定するものです。

5ページをご覧ください。

後期計画は、基本構想で掲げた「目指す釜石の将来像」とそれを実現するための「まちづくりの基本理念」、「まちづくりの基本目標」といった「まちづくりの基本方向の体系」など基本的な枠組みは継承しつつ、将来の行政需要やまちづくりの方向性等を市民と行政が共有するとともに、これからのまちづくりに向けた施策を総合的にまとめる計画として策定します。

6ページをご覧ください。

具体的には、まちづくりの基本目標ごとに、これまで展開してきた施策を評価・検証し、社会情勢の変化や新たな課題を踏まえながら、今後取り組む施策について検討します。

後期計画においては、赤枠部分とそれに紐づく主な施策を見直すこととしています。

7ページをご覧ください。後期計画策定に向けた体制です。

当市では、市民の皆さんと一緒にその実現に向けてともに取り組んでいける総合計画にするため、公募した市民で組織される「かまいし未来づくりプロジェクト」との意見交換を実施しながら、策定の初期段階から52名の市民の皆様と一緒に検討してきております。

また、市内8地区の地域会議において、地区別計画を説明し、意見交換を行っております。

併せて、外部専門家として、岩手県立大学の専門的見地を持った先生からアドバイスをいただくほか、市民満足度調査の結果を取り入れ、工夫した様々な手法を用いて市民の意見を把握しながら、策定を進めていきます。

加えて、今回総合振興審議会において、「保健福祉」、「教育文化」、「産業雇用」、「生活環境」、「危機対応」、「地域づくり」の6つの部会を設置し、「庁内作業部会」と「かまいし未来づくりプロジェクト」で取りまとめた内容について、お諮りしてご意見をいただきたいと考えています。

8ページをご覧ください。

策定スケジュールになりますが、令和6年度では10月に全庁的な体制を構築するため、平松副市長を委員長とした各部長等で構成する策定委員会を開催後、11月からは庁内での作業部会をスタートさせ、これまでの取組や現状と課題についての振り返りを進めています。12月と3月には「未来づくりプロジェクト」を開催し、前期5年間の振り返りを実施しています。総合振興審議会については12月に開催し、今後のスケジュールや策定体制について説明を行っております。

9ページをご覧ください。

令和7年度では、5月28-29日に「未来づくりプロジェクト」を開催し、当市の持続可能なまちづくりについて意見交換を行い、7月に地域会議において8地区ごとに説明、8月26日に「未来づくりプロジェクト」を開催して全市民参加型のまちづくりやキャッチフレーズの検討を行っております。

このほか、11月25日に市議会議員全員協議会で説明を行い、意見を伺っております。

そして本日の総合振興審議会で諮問して1月28日に答申をいただき、2月10日に再度市議会議員全員協議会での説明を経て、第六次総合計画後期基本計画は来年3月の完成を目指してまいります。

以上で第六次総合計画後期基本計画の策定について説明を終わります。

【第六次釜石市総合計画後期基本計画素案について】(資料No.3)

資料No.3の1ページをご覧ください。

総合計画の序論につきましては、先程の説明と重複しますので、割愛します。

5ページをご覧ください。ここからは、当市の現状と課題についてご説明します。

はじめに、当市の現状になります。

6ページをご覧ください。

人口動態については、1963年の92,123人をピークに減少へ転じ、2025年5月末時点で28,412人、100年前よりも低い水準となっています。国全体で急速な人口減少・少子高齢化が進展する中、当市も1990年に高齢化率14%、1995年には21%を超え、全国に先駆けて超高齢社会を迎えています。国の調査機関の推計では、2050年には2人に1人が高齢者となる見通しとなります。

7ページをご覧ください。

人口推計と将来展望ですが、第3期釜石市人口ビジョンでは、少子化対策や移住・定住施策を講じることで、2030年に25,000人台、2040年に20,000人台、2050年に15,000人台を維持することを目指しております。

8・9ページをご覧ください。

財政状況については、人口減少により市税収入の大幅な増加は見込めず、施設の維持管理費や人件費などの経常的な経費は物価高騰や労務費の上昇などの影響もあり、財政運営は厳しい状況が続いています。

令和6年度決算における経常収支比率は99.0%と高水準であり、公債費負担も新市庁舎建設事業の進捗により増加が見込まれます。安定した財政基盤を維持するためには、歳入確保と効率的な行財政運営

による歳出削減、公債費の適正管理が不可欠であります。

10・11ページをご覧ください。

社会情勢の変化については、全国的な人口減少・少子高齢化の進行、新たな感染症の流行、自然災害の激甚化・頻発化、デジタル化の加速、脱炭素社会への転換、SDGsの達成に向けた機運の高まりなどが挙げられます。

これらの変化に対応し、人口減少時代にふさわしいコンパクトなまちづくりや、全ての市民が活躍し続けられる社会の実現が求められています。

12ページをご覧ください。ここからは当市の課題になります。

後期基本計画の策定にあたり、市民の皆さまのまちづくりに対する意識や満足度、課題認識を把握するため、市民意識調査を実施しております。

令和4年度と6年度に、住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民を対象にアンケート調査を行い、まちづくりの各分野に関する満足度や今後の課題について幅広くご意見をいただきました。この調査結果からは、地域活動や子育て支援、医療・福祉、生活環境、産業振興、防災など、多岐にわたる分野での市民評価の変化や新たな課題が明らかとなり、今後のまちづくりの方向性や施策検討の重要な基礎資料となっています。

16ページをご覧ください。

当市を担う世代や地域の担い手の視点を反映するため、「かまいし未来づくりプロジェクト」を組織し、ワークショップを開催しています。

市内の高校生や市役所の若手職員、市民有志、当市で活動する学生など多様なメンバーが参加し、前期基本計画期間の取組を振り返るとともに、まちづくりの基本目標ごとに現状や課題、今後の方向性について意見交換を行っています。ワークショップでは、子育て支援や医療、地域コミュニティの活性化、産業振興、教育、防災など、現場の実感や市民目線での課題や提案が数多く出され、これらの意見を計画策定の参考としております。

20ページをご覧ください。

ここからは、これら市民の声やワークショップでの意見を踏まえ、庁内に作業部会を設置し、前期基本計画期間の「計画の推進」と5つの「基本目標」の実績と課題の検証を行っています。各部局が連携し、施策ごとの進捗や成果、未達成の課題、社会情勢の変化に伴う新たな課題などを整理し、より効果的な施策展開に向けた見直しを進めてきております。

特に、政策の成果指標については、計画策定時の値、中間目標値、現状値を比較しながら、目標達成状況や進捗の度合いを客観的に評価しています。達成が進んでいる分野や、さらなる取組が必要な分野を明確化し、今後の施策の重点化や改善につなげております。

29ページをご覧ください。ここからは後期基本計画になります。

30・31ページをご覧ください。後期基本計画において、重点的に推進する取組についてご説明いたします。

これからの当市におけるまちづくりの鍵は、地域の外から寄せられる多様な力と、地域がこれまで培ってきた「地域力」にあると考えております。

後期基本計画の策定にあたっては、全国各地や世界各国から当市に関心を寄せ、支え、ともに汗を流してくださる方々との絆を大切に、今後もその輪を広げていくことが、まちの活力や新たな価値の創出につながることも考えています。

また、見守り活動や自治会、地域の祭りや文化活動など、地域が本来持つ自主的な力を最大限に引き出し、地域コミュニティの持続的な発展を目指します。

さらに、未来を担う人材の育成にも力を入れ、子どもや若者が地域に誇りと愛着を持ち、主体的にまちづくりに関わることで、こうした力が持続的に循環し、当市のまちの活力が次世代へと受け継がれていくものと考えております。

他方、人口減少という大きな課題に対しては、現実をしっかりと見据えつつも、希望を持って取り組んでいく必要があります。

後期基本計画においては、これまで掲げてきた、「新たな時代」に向け、優先して取り組む4つの柱に「防災」を加え、5つの優先プロジェクトを設定するとともに、全庁的に人口減少対策に取り組みながら、持続可能なまちの基盤づくりを着実に進めてまいります。

32・33ページをご覧ください。

「プロジェクト1 地域医療の充実」では、地域内で必要な医療を受けられる体制の維持、医療人材の確保、救急医療体制の充実、医療 DX の推進を図ります。

34・35ページをご覧ください。

「プロジェクト2 子育ての支援」では、子ども・子育て支援事業計画に基づき、切れ目ない支援体制の充実、幼児教育・特別支援教育の充実、子どもの居場所づくりの推進を図ります。

36・37ページをご覧ください。

「プロジェクト3 教育の充実」では、学力向上と地域に根ざした人間性豊かな児童・生徒の育成、地域と連携した学びの場の創出、郷土愛の醸成を図ります。

38・39ページをご覧ください。

「プロジェクト4 産業の振興」では、地域企業の経営力向上、企業誘致、脱炭素先行地域づくり、釜石港の流通拠点化、農林水産業の振興、観光振興と交流人口の拡大を図ります。

40・41ページをご覧ください。

「プロジェクト5 防災対策の充実」では、実践的な防災訓練、防災教育の推進、自主防災組織・消防団の強化、避難所・避難経路の整備、災害情報伝達体制の強化を図ります。

42ページをご覧ください。

持続可能なまちづくりの実現には、人口減少という根本的な課題への対応が不可欠です。後期基本計画では、5つの優先プロジェクトを推進するとともに、地域全体の活力を高めるため「人口減少対策」に全庁をあげて取り組みます。

43ページをご覧ください。

ここからは、第1部「計画の推進」、第2部基本目標ごとの施策における第1章「保健福祉」から第5章「危機対応」まで、全ての分野において、これまでの実績や課題、市民の声、社会情勢の変化を総合的に検証し、必要な見直しを行っております。

第1部「計画の推進」については、当計画を推進するための取組について掲げております。

61ページをご覧ください。

第2部・第1章「保健福祉」については、「あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち」を実現するための取組を掲げております。

75ページをご覧ください。

第2章「生活環境」については、「人と自然が共存し安心して暮らせるまち」を実現するための取組を掲げております。

87ページをご覧ください。

第3章「産業雇用」については、「未来をつくる人と産業が育つまち」を実現するための取組を掲げております。

107ページをご覧ください。

第4章「教育文化」については、「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」を実現するための取組を掲げております。

125ページをご覧ください。

第5章「危機対応」については、「過去に学びみんなが命を守れるまち」を実現するための取組を掲げております。

137ページをご覧ください。

ここからは、市内8地区の地区別計画になります。

地区別計画については、各地区生活応援センターと地域会議が中心となり、前期期間の振り返りを実施するとともに、各地区の特色を生かした地域づくりに取り組んでいくこととしております。

以上、第六次釜石市総合計画後期基本計画素案になります。

【質疑応答】

○鹿野委員

今後の見通しで、人口減少が進み、税収など歳入増加が大きく見込めない、財政運営が厳しい状況が続いています。と言いつつも、この計画案を見ると様々な施策をやっていくというようなことが書かれています。本当にできるのか？というモヤモヤ感がある。

○中村総務企画部長

確かに、実際に人口減少が進み、歳入が見込めないということが書かれていますが、それを補うための計画を作って、優先プロジェクトを加え、人口減少対策を打っていきたいと考えております。

【閉会】